

【三峯神社】

秩父南部の風光明媚な山々の丘にある三峯神社は、秩父三社の一つである。三峯神社は、秩父多摩甲斐国立公園内の雲取山登山口のそばにあり、参拝者とハイキング旅行者の両方に人気の行先である。三峯神社を訪れる人の多くは興雲閣に滞在する。興雲閣は、疲れた巡礼者に宿泊施設を提供する、長い伝統を持つ温泉宿である。

秩父北部の宝登山神社と同じく、三峯神社は1世紀頃、日本の伝説上の第十二代天皇である景行天皇のご子息である日本武尊皇子によって建立されたと言われている。東北地方平定の遠征中にここを通り、尾根に登って一帯を見渡したところ、皇子はその美しさに感銘を受けた。そしてこの場所にイザナミとイザナギを祀った。イザナミとイザナギは、日本の島々を創造した日本神話の夫婦神である。その後、景行天皇はこの神社を「三つの峯」にちなんで、三峯神社と名付けた。三峯とは、妙法ヶ岳（1,332 m）、白岩山（1,921 m）および雲取山（2,017 m）の山頂を指している。

三峯神社で初めて正式な参拝が始まったのは、修験道の開祖である役行者（634～701年）が入山した7世紀後半である。修験道とは、神道、道教、仏教、山岳修道の要素を組み合わせた信仰である。修験道の多くの神々は、権現であり、それらは、仏教の神格の仮の姿とみなされている神道神である。およそ1世紀後、人々に崇敬されている仏教僧の空海（774～835年）は、十一面観音像を彫ったが、これは、神社の横に新たに建てられた本堂に設置されている。

鎌倉時代（1185～1333年）以降、三峯神社の名声と影響力は、入山修行者（山伏）により広まり、畠山重忠（1164～1205年）や新田義興（1331～1358年）などの強力な武将が土地を寄進した。神社は1352年まで繁栄していた。しかし、義興の一族が足利軍政に対し反乱を起こした際、義興をかくまったことにより、それに勝利した足利氏が神社に対する罰として社領を占領し、神権を廃止してしまった。

三峯神社の衰退は1502年まで続いたが、その後、修験者の月観道満（生没年不詳）が、再建資金を募るため27年間の行脚に出かけた。そして1533年、後奈良天皇（1495～1557年）が三峯神社を天台修験の総本山に指定したとき、道満の目標はついに達成された。

1720年、日光法印という僧が山の頂上で瞑想をしていたとき、オオカミが何匹か現れた。日光法印は、それらを山の神からの使いとみなし、家事、強盗、作物荒らしから身を守るためとして、オオカミのお守りを配布し始めた。三峯神社の名声は、そのお守りを通じて関東地方全体に広がった。今日、ほとんどの神社では、狛犬の代わりにオオカミの像が三峯神社への入り口を守っている。

1868年、新たに樹立された明治政府は、全国に神仏分離令を出した。三峯神社からも仏像や仏教装飾が取り除かれ、境内全体が完全に神道の場所として定められた。

そして20世紀後半に神社は整備された。1964年に拝殿と本殿が改修され、1976年に三峯山博物館が完成し、そして1983年に興雲閣が加わった。1991年には、かつての仏教の本堂にカフェが建設された。2002年、神社創建1900年および月観道満の入山500年を記念して、拝殿、本殿、主門の漆塗替えが施され、その壮大な彫刻の塗替えが行われた。

